



ラナマコラ女性組織の理事長・ダンミカさんとお義母さん。彼女の有機農場は管理がきちんとされている

ACC21

スリランカ女性
支援だより

2018年12月

女性農家のマーケティング始動！

認定NPO法人アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21) は、「UWWO」(ウバ・ウエラッサ女性団体)と周辺の17女性組織(メンバー総数780人)と連携し、2017年4月より「スリランカ女性住民組織による共同農業ビジネス開発と市場開拓を通じた地場産業の育成と女性のエンパワメント」に取り組んでいます。

2017年にはピーナッツの栽培が盛んなウバ州モナラガラ県ウエラワヤにある「UWWO」の事務所敷地内に『マーケティング・センター』が完成。2018年2月から10女性組織のメンバーが栽培する特産品ピーナッツの買取と加工、有機農産物の栽培と販売活動がスタートしました。



仲買人に長い間安く買い叩かれてきた女性たちはセンターの完成を待ちわびていました。センターにピーナッツの加工機が設置されてからは連日、見学者が引きも切らず訪れました。メンバーから買い取ったピーナッツを殻むき機に入ると、

自動で加工し、大きさによって振り分けられます。さらに手作業でグレード1から4まで振り分けま。2018年2月～10月末に、ピーナッツ約28.85トンを約80世帯から約526.9万スリランカ・ルピー(約367万円)で買い取り、うち約24.8トンを業者に販売、売上高は約563万ルピー(約392万円)となりました。生産者1世帯の収入約4.5万円(月5千円)に貢献したことになります*

ピーナッツの他、週2回、コロンボの有機農産物宅配業者「Kenko 1st」にマメ、カボチャ、果物などを卸し、10月末までに計23種類、1.24トンを販売し、約16.4万ルピー(約11.4万円)を売り上げました。30世帯が、有機認証機関のトレーニングを受け、うち14世帯が11月はじめに現場検査を受けました。



手作業で等級別に分ける。生産者であるメンバーが作業することで質の高いものを栽培する重要性を認識するようになった

*1 スリランカ・ルピー = 0.6969 円

事業地：ウバ州モナラガラ県ウエラワヤ
(1,848世帯のうち780世帯を対象)

面積では2番目に大きい県で乾燥地帯。多国籍企業によるサトウキビの栽培用地買収をめぐる住民の反対運動が起きたものの(1984年)、バナナやサトウキビの大規模プランテーション、加工工場が次々と建設され(1990年代後半～現在)、現在では小規模農家、工場労働者が大半です。住民の70%近くが生活保護を受けており県の貧困ライン(月Rs.3,822:約2,708円。1日約90円)以下の生活をしています。多くの女性たちは日雇い労働者で、あらゆるレベルでの意思決定プロセスに参加できていません。



ネクスト・チャレンジ

2019年度の取り組み

このほか、2018年度（2018年4月～）は次のような活動を行いました。

- ✦ 関連データの記録、算出法トレーニング
- ✦ 購入から販売までのデータ記録・入力・分析トレーニングとデータベース開発、入力
- ✦ 質の高い種の選定、土地の最大活用、適切な栽培方法のトレーニング
- ✦ ピーナッツ生産者の農業ローン融資仲介（これまでに約300世帯が申請）



2019年度の取り組み

マーケティング・センター活動

課題1: 買い取り資金の確保

栽培、買取、加工、販売について綿密な収支計画をたて、実行するシステムを整備し、マーケティング・センターの資金繰りの見通しをたてます。ACC21スタッフが5月に現地で行ったワークショップで、「利益をあげるためには、生産者から1ヶ月に約243万ルピー（約169万円）相当のピーナッツを買い取り、1ヶ月約8.3トン、年間で約100トン販売する必要がある」と試算されました。2018年度は女性組織メンバーと銀行から個人融資を受け買い取り資金に充てましたが、安定した資金確保が課題です。

課題2: マーケットの開拓と拡大

ピーナッツの新たな販売先として、ビスケット会社などの交渉を進めます。有機農産物は最大で40種類前後の作物を出荷できるため、販売先と協力して栽培計画をたて、安定供給を行うシステムをつくるとともに、有機認証を受ける農家を増やします。



ラナマユラ女性組織理事長ダンミカさん（前頁写真）の農場と、自宅内の事務所に貼られた農場のデザイン画



生産者の取り組み

課題3: 土地を最大限活かしたモデル農場

収穫量を増やすために、土壌改良、整地、栽培方法を改善します。

彼女たちはそれぞれの経験をもとに頭の中で計画をたて栽培していますが、土地を最大限活用できているわけではありません。水源の限界、農業技術、農場デザインや栽培計画策定の能力不足によって、1世帯平均2ヘクタールの土地の4割が利用されていません。とくに貧しい農家は「これでイケル！」と確信できなければ、リスクを冒して新しいことに挑戦することはできないのです。そこで、リーダー6名の農場を利用して、長・中・短期の換金作物の栽培を行う試験農場を、専門家指導のもと開設します。試験農場には太陽光発電を利用した農業用水汲み上げポンプなども導入し、メンバーが定期的に訪問できるようにします。

課題4: 農業栽培カレンダーの開発

生産者とマーケティング・センターがピーナッツやその他の有機農産物の栽培カレンダーを作成します。そして定期的にカレンダーをアップデートすることを習慣化していきます。

マーケティング・センターは、オンライン上の共有ファイルを活用してパイヤーとの情報共有を行い、市場開拓と拡大に役立てます。

2018年12月3日～25日

クラウドファンディング挑戦中！

女性農家を起業家に！

～スリランカ女性780人による

地場産業化を支援してください～

<https://japangiving.jp/campaigns/33948>

（5千円のご寄付で女性1人）

1年間支援できます！



貧困問題の解決には、女性が社会に主体的に参加することが重要です。その有効な手段のひとつとして、村の雑貨店や縫製などの零細規模のビジネスを営む貧困層の女性たちに対して数千円～1万円ほどの少額の資金を無担保で融資するほか、貯金の推進や保険などの金融サービスを提供する「マイクロファイナンス」が世界中で実践されています。私たちACC21も支援と普及活動に取り組んできました。

現在、世界で極度の貧困状態にある人々の数は減少傾向にありますが、一方で貧富の格差は広がっています。統計上、国の経済成長率が上がっても、そこに暮らす人々の生活が良くなっているとは限らず、上がり続ける物価や教育費などに、途上国の人々は頭を抱えています。とりわけ、食料を生産する重要産業である農業に従事する人々が、泣く泣く畑を捨て、海外や都市部に出稼ぎする例が後を絶ちません。

女性をエンパワーするためには、経済力の強化と共に、女性同士が団結し、社会に対して発言していく力を身につけることが重要という信条のもと、ACC21は、スリランカの女性農家たちが自らの手で従来の農業やマーケット（市場）のシステムを変え、「豊かな食を支えている」という自覚と誇りを持ち、地場産業を発展させていくプロジェクトに取り組んでいます。

2018年12月、このプロジェクトの推進のため、Japan Givingの「寄付月間2018 Giving December」に参加します。ぜひ、スリランカの女性たちにお力を貸してください。



【編集：発行】

認定NPO法人アジア・コミュニティ・センター21（ACC21） <http://acc21.org/>

※ACC21へのご寄付は税制上の優遇措置の対象となります